

令和元年7月30日
自由民主党政和会 古谷幸男

上田市
大学公立化について

長野大学となった昭和49年からは、学生数も安定的に確保されていた。平成5年には4,000人を超える志願者もあった。当時期は全国的に地方大学においても大学受験が極めて順調に伸びていた時期といえる。

しかし、平成18年からは定員割れが続くという。これも地方大学として全国的な傾向がでてきたいえる時期であった。特に単科大学に大きな影響が出て、学生の確保や大学の財政運営で支障が出始めていた。

このような状況下のもと長野大学では、地元学生の受け皿として存続させる必要があったため、平成26年3月に公立化の要望を市に対し提出し、様々な取り組みを経て、平成29年3月市議会において可決、同年4月に開学となつた。

どちらかといえば順調に推移したと言って過言ではない。公立化元年度では、志願者倍率は9.1倍であり、学生の偏差値も向上している。スポーツにおいても推薦の特別枠を設けている。地域の中でもアルバイトなどの需要に対しての供給の人的確保など活性化の一助となっているとも言える。

市の財政負担についても確実に交付税と独立採算性を念頭に取り組んでいくことが必要である。

徳山大学の公立化についても同様で地方の大学の状況とまちづくりについては、今後の影響するところが大きい。将来をしっかりと見据えて公立化を目指すべきと考える。また、徳山大学でもスポーツ統合学科を設置してもよいのではないかと思った。

令和元年7月31日
自由民主党政和会 古谷幸男

柏崎市
新潟産業大学の公立化について

地元大学の公立化の要請を受けたが、結論は公立化を受けないとの結果とした状況を聞いた。

その理由の大きな点は、市の永続的な財政出動の可能性が高く、柏崎市の財政規模では困難であるとの結論になったことである。

新潟産業大学の公立化の視点が浮上したのは、学生の定員割れが続き、これまでにも財政支援をしていること、大学の基金財政状況が極めて厳しい状況にあったことからである。

この視点で徳山大学の状況を考えると、徳山大学の内部留保金は50億円余り、現在の定員をほぼ充足などで、条件的には自主運営がまだ可能である。しかし、周南市の総合的な視点でまちづくりを考えた時、将来に向かって人財育成、各種産業の発展性、経済効果、定住促進といった永続的な効果がもたらせる総合的視野の見地に立った判断をすべきではないか。徳山大学は我が町の大きな財産である。大学の公立化をまちづくりの大きな柱の1つとして取り組んでいかなければいけないと強く感じた。

なお、新潟産業大学は私学としての存続に努力しているとの説明があった。

令和元年8月1日
自由民主党政和会 古谷幸男

高岡市
まちなか再構築事業（防災に強いまちづくり）

防災に強いまちづくりをすすめるための「まちなか再構築事業」は、博労町まちづくり計画の行政の取り組みと自治会としての取り組みを一体的な体制づくりとして活動することとされている。

実際現地に行き住民の意見を聞くと、取り組みに成果を上げている地元の自主性が尊重されているようだった。

行政が主体となると「行政がやりたいから」と任せきりになる。地元の自主性を促し、実現していくことが重要なことのことであった。

各自治体で様々な取り組みを行っているが、一番重要なことは住民自身が積極的に取り組んでいくことであると改めて認識した。

会派視察報告書　　自由民主党政和会　　吉安新太

令和元年 7月 30 日 (一日目)

長野県上田市へ

徳山大学公立化を目指す、我が市にとって、先駆けて公立化に成功された長野大学を訪問した。

① なぜ公立化をめざすのか？

- ・年々、志願者数が減少傾向にあり、危機感を覚え、大学側から行政に要望書の提出があったのが事の始まり。
- ・公立化準備室を設置し、約4年間で公立化し、開学に至った。

② 公立化のメリット

- ・「公立」というブランド力の価値は大きい。学費も安い。
- ・入試の競争率があがるので、つられて、年々、偏差値が上がり、学生の資質の向上につながった。
- ・教職員の意識も変化があらわれ、私立の時に通用していたものが、通用しなくなるなど、教育面だけではなく、研究、地域貢献も必要であることから、教職員の資質の向上につながった。
- ・公立大学協会と、いうものがあり、横のつながりが出来たこと。

③ 公立化のデメリット

- ・公立化すると、設置責任があり、交付金を市から大学側に出さないといけない。金額についての、定めは特になし。
- ・各研修も義務化され、事務費の負担が増える。
- ・文部科学省からの助成金がなくなる。
- ・学生の資質の上昇により、学校偏差値があがるため、スポーツ推薦枠や、特定留学生の入学、受け入れが、現状より難しくなる。

④ まとめ

- ・メリット、デメリットを考慮した上で、市長の公約である大学公立化は進めるべきだと感じました。
- ・なおかつ、スピード感をもって、二年後の創立50周年に公立化開学が進むよう、自分に出来る活動をしていこうと思います。

令和元年 7月 31日（二日目）

新潟県柏崎市へ

新潟産業大学の公立化を断念された経緯について。
徳山大学公立化へ向けた、参考にするべく訪問した。

① 公立化への経緯

- ・H26年3月に、大学側から市長へ非公式に打診があった。
同年11月に、正式に要望書を提出。
- ・H26年6月から、随時会議を重ねるが、なかなか公立化へはこぎつけないでいた。
- ・H28年8月に、公立化へ慎重派だった市長から、同じく慎重派の新市長へ交代する。
- ・H29年5月に、大学法人可能性調査業務を民間企業へ委託し、客観的評価をしてもらう。
- ・H30年2月に、その、民間の調査書をもとにした、改革プランを提出したが、その後議論を重ね、正式に公立化を断念した。

② 良かった点

- ・公立化が、断念となり、逆に大学側に経営の危機意識が生まれ、経営の体質として、良い方向に向かった。
- ・H30年8月に、通信制の学校を運営している株式会社と、業務提携をむすんだことで、定員の増加につながった。

③ まとめ

- ・公立化は、断念してしまったが、極めて稀なケースで、民間企業と業務提携をむすべたことで、大学の経営はゆるやかな上昇、安定を保っている。
- ・捨てる神あれば、拾う神ありなのだと、改めて感じました。

令和元年 8月1日（三日目）

富山県高岡市へ

まちなか再構築事業（防災に強いまちづくり）について

① 観光の町／歴史の町

- ・日本三大仏である、高岡大仏がある。建物の中ではないので、道路から見上げることができて、圧巻だった。
- ・御車山が文化財に認定されてある。街中に、保管する建物が建っている。
- ・鋳物製造発祥の地であり、物づくりの町。

② 防災に対する取り組み

- ・街中に、生活道路も、旧道でとても狭く古い木造家屋が密集している。
- ・市は、この地域でも特別に、博労地区を防災重点地区として、空き家の解体、空き家の再活用など、新たなまちづくりを進めている。

③ 町なかに皆が集まれるサロンを作った

- ・ある一軒家を、地元の人たちで、リフォーム&リニューアルした。
- ・自治会に貯蓄してあった、500万。自治会内の有料駐車場料収入。約100世帯ある、各世帯から千円ずつ協賛金を集めた。
- ・それらを、改築費用または、運営、維持費用にあてた。
- ・サロンは、市は基本的に関与せず、自治体が主導で運営し、年間約130回程度の催しを行っている。その際のコーヒーの売上代も大きな財源となっている。

④ まとめ

- ・高岡駅周辺は、まちなみの景観が昔のままの姿で守られていて、歴史と品格と美しさを感じられた。
- ・逆に新高岡駅周辺は、大型施設の建設ラッシュで、対照的に近未来的なまちづくりが進められていた。